

11) 堤冠部保護工(隅石張)

1. 適用範囲

本資料は、砂防堰堤の堤冠部保護として、隅石張(天然切石 30cm×30cm×45cm)を施工する場合に適用する。

2. 施工歩掛

堤冠部保護工(隅石張)歩掛は、次表を標準とする。

表 2.1 堤冠部保護工(隅石張)歩掛 (9m 当り)

名称	規格	単位	数量	摘要
石工		人	1.0	
普通作業員		〃	2.6	
隅石	30cm×30cm×45cm	ヶ	30	
モルタル		m <sup>3</sup>	0.16	

表 2.2 モルタル材料(1m<sup>3</sup> 当り)

配合比	セメント	砂
1:2	720kg	0.95m <sup>3</sup>

3. 単価表

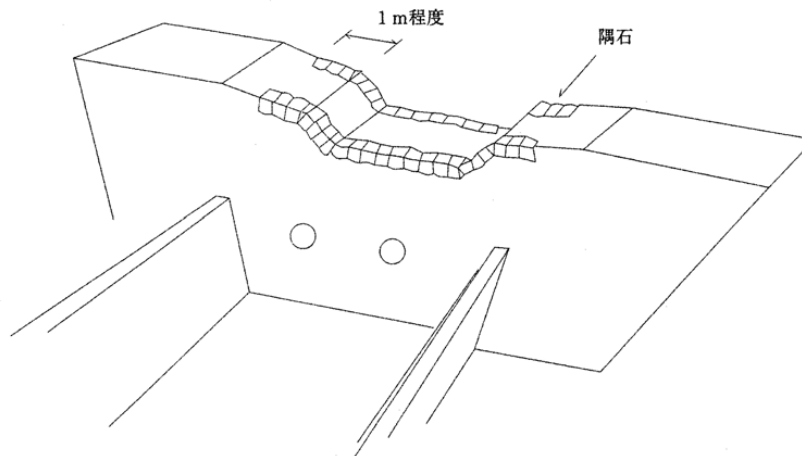
(1) 堤冠部保護工(隅石張) 9m 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
石工		人	1.0	表 2.1
普通作業員		〃	2.6	〃
隅石	30cm×30cm×45cm	ヶ	30	〃
モルタル	C=720kg/m <sup>3</sup>	m <sup>3</sup>	0.16	〃, (2)単価表
諸雑費		式	1	
計				

(2) モルタル 1m<sup>3</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
セメント		t	0.72	表 2.2
砂		m <sup>3</sup>	0.95	〃
諸雑費		式	1	
計				

参考図



## 12) 仮締切工

### 12)-1 砂防土砂仮締切・砂防土砂土のう仮締切

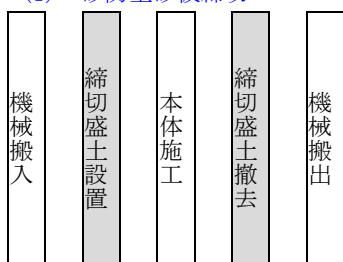
#### 1. 適用範囲

本資料は、砂防工（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）の施工に伴う仮締切工の現地土砂を用いた砂防土工、土のう積工及び大型土のう工に適用する。

#### 2. 施工概要

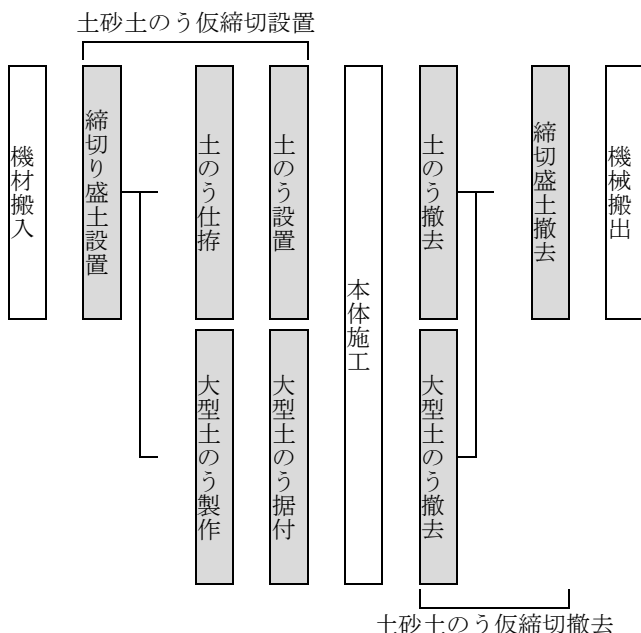
施工フローは、下図を標準とする。

##### (1) 砂防土砂仮締切



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

##### (2) 砂防土砂土のう仮締切



(注) 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。

#### 3. 機種の選定

機械・規格は次表を標準とする。

表 3.1 機種の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
仮締切（盛土）設置 仮締切（盛土）撤去	バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型山積 0.8m <sup>3</sup> （平積 0.6m <sup>3</sup> ）	台	1	
	ブルドーザ	排出ガス対策型（第1次基準値） 普通 15t 級	台	1	
大型土のう据付・撤去	バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型山積 0.8m <sup>3</sup> （平積 0.6m <sup>3</sup> ）	台	1	
	トラッククレーン	油圧伸縮ジブ型 20t 吊	台	1	

(注) 現場条件により、上表により難しい場合は、別途考慮する。

## 4. 施工歩掛

土工は、「第III編第3章1)-1土工」の3. 施工パッケージによる。

土のう工は、「第II編第5章12)-1土のう工」の2. 施工歩掛による。

大型土のう工は、「第II編第5章12)-2大型土のう工」の4. 施工歩掛による。

## 5. 単価表

(1) 砂防土砂仮締切 100m<sup>3</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
掘削 (砂防)	押土無し	m <sup>3</sup>	100	
掘削 (砂防)	押土有り	〃	100	
計				

(2) 砂防土砂土のう仮締切 100m<sup>3</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
掘削 (砂防)	押土無し	m <sup>3</sup>	100	
掘削 (砂防)	押土有り	〃	100	
土のう積工		式	1	(3)単価表
大型土のう工 (製作)		〃	1	(4)単価表
大型土のう工 (据付・撤去)		〃	1	(5)単価表
計				

(3) 土のう積工 10m<sup>2</sup> 単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
土砂		m <sup>3</sup>		第II編第5章12)-1土のう工の表2.2による。
土のう	62×48cm	袋		〃
普通作業員		人		第II編第5章12)-1土のう工の表2.1による。
諸雑費		式	1	
計				

## (4) 大型土のう製作・据付 (バックホウ据付) 10袋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	第II編第5章12)-2大型土のう工製作据付歩掛による
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
普通作業員		〃	1×10/D	〃
大型土のう	容量 1m <sup>3</sup>	袋	10	〃
土砂		m <sup>3</sup>	10	〃
バックホウ運転 (クレーン仕様)	排出ガス対策型 (第1次基準値) クローラ型クレーン機能付 2.9t 吊 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	日	10/D	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(注) D: 日当り施工量

## (5) 大型土のう製作・据付(ラフテレーンクレーン据付) 10 袋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	第Ⅱ編第5章12)-2大型土のう 工製作据付歩掛による
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
普通作業員		〃	1×10/D	〃
大型土のう	容量 1m3	袋	10	〃
土砂		m3	10	〃
バックホウ運転 (クレーン仕様)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型クレーン機能付 2.9t 吊 山積 0.8m3 (平積 0.6m3)	日	10/D	〃
ラフテレーンクレーン 賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃	10/D	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(注) D: 日当り施工量

## (6) 大型土のう製作 10 袋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	第Ⅱ編第5章12)-2大型土のう 工製作据付歩掛による
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
普通作業員		〃	1×10/D	〃
大型土のう	容量 1m3	袋	10	〃
土砂		m3	10	〃
バックホウ運転 (クレーン仕様)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型クレーン機能付 2.9t 吊 山積 0.8m3 (平積 0.6m3)	日	10/D	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(注) D: 日当り施工量

## (7) 大型土のう据付 10 袋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	第Ⅱ編第5章12)-2大型土のう 工製作据付歩掛による
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
普通作業員		〃	1×10/D	〃
バックホウ運転 (クレーン仕様)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型クレーン機能付 2.9t 吊 山積 0.8m3 (平積 0.6m3)	日	10/D	〃
ラフテレーンクレーン 賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃	10/D	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(注) D: 日当り施工量

(8) 大型土のう撤去 10 袋当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×10/D	第Ⅱ編第5章12)-2大型土のう工製作据付歩掛による
特殊作業員		〃	1×10/D	〃
バックホウ運転 (クレーン仕様)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型クレーン機能付 2.9t 吊 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	日	10/D	〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型(第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	〃	10/D	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(注) D: 日当り施工量

(9) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ (クレーン仕様)	排出ガス対策型(第1次基準値) クローラ型クレーン機能付 2.9t 吊 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	機-18	<p><b>【製作・据付】</b> (バックホウによる据付)                      運転労務数量 →1.00                      燃料消費量 →110                      機械損料数量 →1.39</p> <p><b>【製作・据付】</b> (ラフテレーンクレーンによる据付)                      運転労務数量 →1.00                      燃料消費量 →130                      機械損料数量 →1.44</p> <p><b>【製作】</b>                      運転労務数量 →1.00                      燃料消費量 →126                      機械損料数量 →1.44</p> <p><b>【据付】</b>                      運転労務数量 →1.00                      燃料消費量 →99                      機械損料数量 →1.36</p> <p><b>【撤去】</b>                      運転労務数量 →1.00                      燃料消費量 →83                      機械損料数量 →1.26</p>

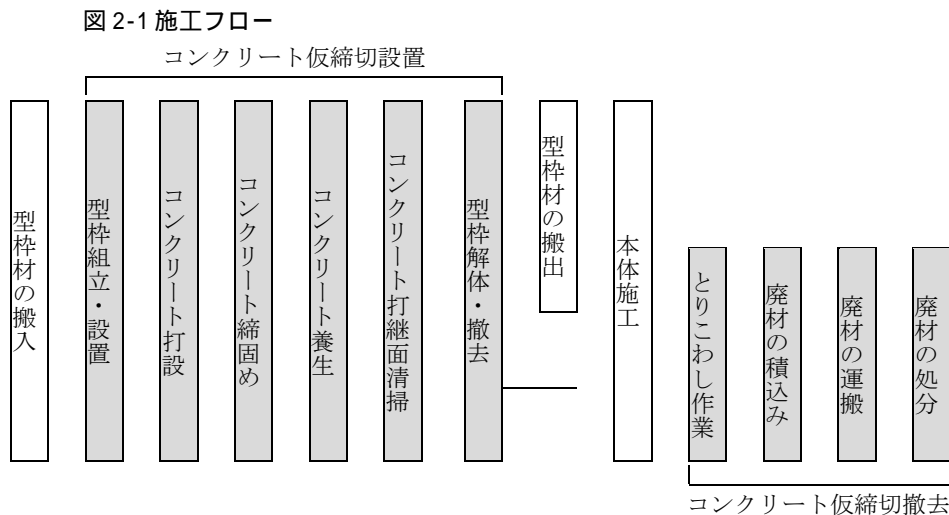
## 12)-2 砂防コンクリート締切

### 1. 適用範囲

本資料は、砂防工（本堰堤、副堰堤、床固め、帯工、水叩き、側壁、護岸）の施工に伴うコンクリート仮締切に適用する。また、コンクリート仮締切撤去については、第VI編第2章10) 構造物とりこわし工及び第II編第2章25) 殻運搬による。

### 2. 施工概要

施工フローは、下図を標準とする。



### 3. 機種の選定

機械・規格は次表を標準とする。

表 3.1 機種の選定

作業種別	機械名	規格	単位	数量	摘要
コンクリート打設	ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型（第1次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	台	1	

(注) 現場条件により上表により難しい場合は、現場条件に適合した機種を別途選定することが出来る。

表 3.2 構造物とりこわし工規格・仕様区分

区分	規格・仕様	単位	工法選定	摘要
無筋構造物	機械施工	m3		

(注) 大型ブレーカは、機械設置地盤より上下 5m 以内の作業に適用する。

### 4. コンクリート投入

コンクリート投入については、第III編第3章2)-1 コンクリート工 8. 砂防コンクリート打設歩掛による。

### 5. 型枠工

型枠工については、第III編第3章2)-1 コンクリート工 5. 型枠工による。

### 6. 構造物とりこわし工

構造物とりこわし運搬処分工については、第VI編第2章10) 構造物とりこわし工及び第II編第2章25) 殻運搬による。

## 7. 単価表

(1) コンクリート仮締切 100m<sup>3</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
コンクリート投入		m <sup>3</sup>	100	(2)単価表
型枠工		式	1	(3)単価表
構造物とりこわし (複合)		〃	1	(4)単価表
計				

(2) 一般部コンクリート打設 100m<sup>3</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		第Ⅲ編第3章2)-1 コンクリート工表 8.1 一般部コンクリート打設歩掛による
特殊作業員		〃		〃
普通作業員		〃		〃
コンクリート		m <sup>3</sup>		第Ⅲ編第3章2)-1 4. 材料使用量式 4.1 材料使用量による
ラフテレーンクレーン運転	排出ガス対策型 (第1次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日		第Ⅲ編第3章2)-1 コンクリート工表 8.1 一般部コンクリート打設歩掛による
雑工種	チップング	式	1	〃
	岩盤清掃	〃	1	〃
諸雑費		〃	1	〃
計				

(3) 型枠設置・撤去, ケレンはく離剤塗布作業 100m<sup>2</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人		第Ⅲ編第3章2)-1 コンクリート工表 5.1 木製型枠設置・撤去, ケレンはく離剤塗布施工歩掛による
型枠工		〃		〃
普通作業員		〃		〃
諸雑費		式	1	〃
計				

### 13) 鋼製砂防工

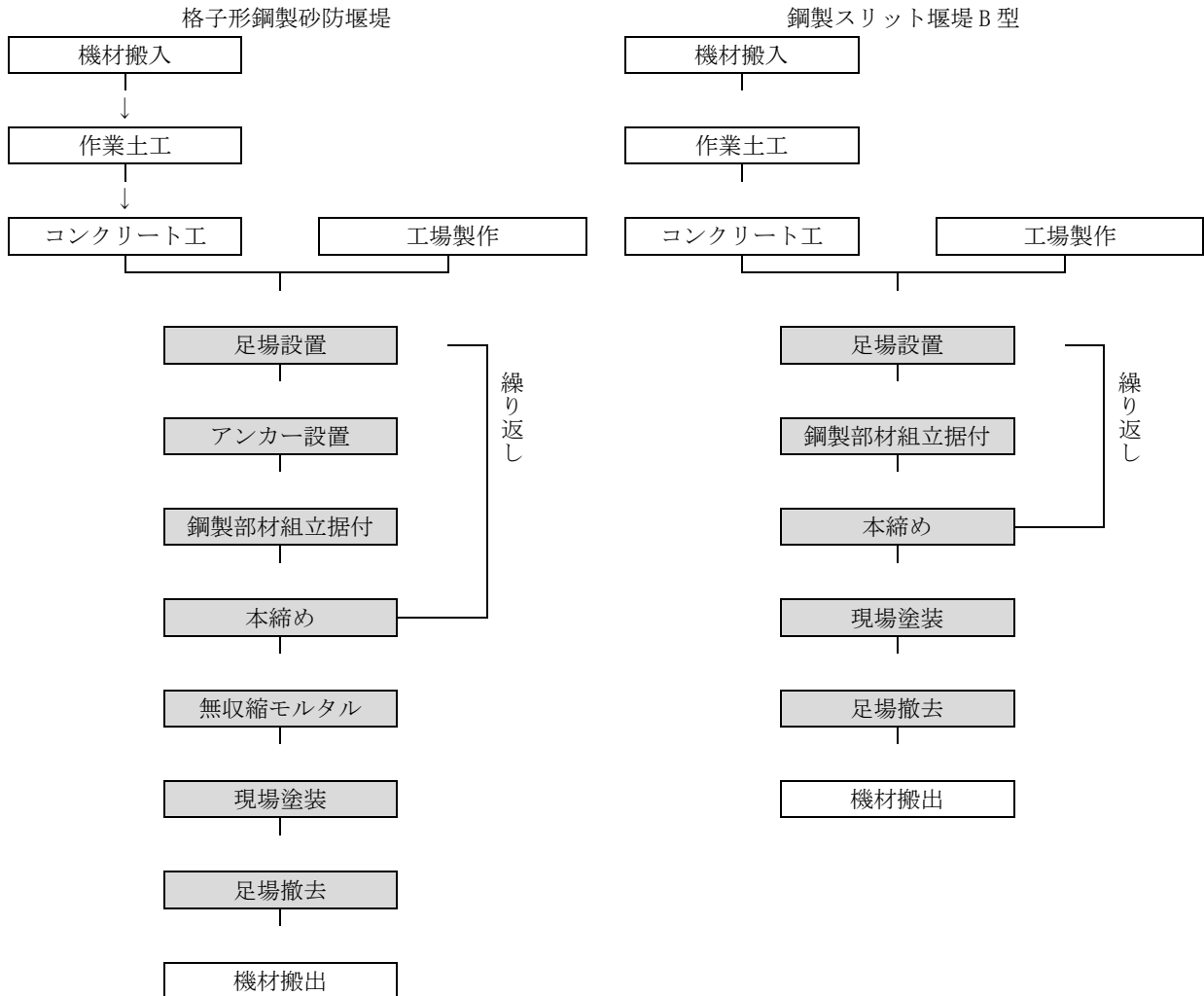
#### 1. 適用範囲

本資料は、鋼製砂防工の透過型のうち、格子形鋼製砂防堰堤、鋼製スリット堰堤 B 型を施工する場合に適用する。

#### 2. 施工概要

施工フローは、下記を標準とする。

図 2-1 施工フロー



- (注) 1. 本歩掛で対応しているのは、着色部分のみである。  
 2. 鋼製部材組立据付は、地組、仮締めを含む。

#### 3. 機種を選定

鋼製部材の組立・据付作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.1 機種を選定

機械名	規格	単位	数量	摘要
ラフテレーンクレーン	排出ガス対策型（第 2 次基準値） 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	台	1	

- (注) 1. 現場条件により、上表により難しい場合は、別途考慮する。  
 2. ラフテレーンクレーンは、賃料とする。



4. 施工歩掛

4-1 組立・据付工

鋼製部材の組立・据付歩掛は、次表を標準とする。

表 4.1 組立・据付歩掛 (1日当たり)

鋼製砂防形式	日当り組立・据付質量 Dw (t/日)	編成人員 (人)	使用機種	諸雑費率 (%)
格子形 鋼製砂防堰堤	$D_w = \frac{W}{0.11W + 3.76}$	世話役 1 特殊作業員 1 普通作業員 1 とび工 2	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊 1 台	27
鋼製 スリット堰堤 B 型	$D_w = \frac{W}{0.09W + 2.92}$	世話役 1 特殊作業員 1 普通作業員 1 とび工 2	ラフテレーンクレーン 排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊 1 台	26

W：組立・据付総質量 単位 (t)

- (注) 1. 本歩掛は、組立・据付けに伴う地組、仮締め、足場設置・撤去を含む。  
 2. 組立・据付質量は、アンカーボルト、ボルト、ナット、ワッシャを除く鋼製部材の総質量とする。  
 3. 諸雑費は、電力に関する経費、組立工具の損料、ドリフトピン、仮締めボルトの費用及び足場損料 (安全ネットを含む) であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。  
 4. 日当り施工量 Dw は小数第 1 位までとし、小数第 2 位を四捨五入する。

4-2 本締め工

本締め工歩掛は、次表を標準とする。

表 4.2 本締め工歩掛 (1日当たり)

鋼製砂防形式	日当り施工量 Dq (本/日)	編成人員 (人)	諸雑費率 (%)
格子形 鋼製砂防堰堤	$D_q = \frac{Q}{0.5Q/1,000 + 1.09}$	世話役 1 特殊作業員 3	22
鋼製 スリット堰堤 B 型	$D_q = \frac{Q}{1.3Q/1,000 + 0.6}$	世話役 1 特殊作業員 2	25

Q：本締めボルト総本数 (本) (高力ボルト+トルシア型ボルト)

- (注) 1. 本歩掛は、組立・据付けの際の本締め工に適用する。  
 2. 諸雑費は、電力に関する経費、組立工具の損料の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。  
 3. 日当り施工量 Dq は整数止めとし、小数第 1 位を四捨五入する。

## 4-3 アンカー工

アンカー工は、格子形鋼製砂防堰堤の組立・据付時に柱脚部を固定するためのアンカーボルトの施工であり、施工歩掛は、次表を標準とする。

表 4.3 アンカー工歩掛 (1 日当り)

日当り施工量 Dq (本/日)	編成人員 (人)		諸雑費率 (%)
$Dq = \frac{Q}{0.02Q + 0.22}$	世話役	1	13
	特殊作業員	2	
	普通作業員	1	

Q：アンカーボルト総本数 (本)

- (注) 1. 本歩掛は、格子形鋼製砂防堰堤の施工に適用する。  
 2. 本歩掛には、ベースプレート下面のレベル調整用の無収縮モルタルの施工労務費を含む。  
 3. 無収縮モルタル材料は、必要量を別途計上する。  
 4. 諸雑費は、電力に関する経費、削孔機具及びグラウトミキサの損料の費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。  
 5. 日当り施工量 Dq は整数止めとし、小数第 1 位を四捨五入する。

## 4-4 現場塗装工

塗装工は、トルシアボルト頭部を含む、全ての外面に対する中塗り及び上塗り塗装であり、次表を標準とする。

表 4.4 塗装工歩掛

(100m<sup>2</sup> 当り)

名称	単位	格子形鋼製砂防堰堤	鋼製スリット堰堤 B 型
塗装工	人	2.9	3.2
諸雑費率	%	1	2

- (注) 1. 本塗装歩掛は、塗装対象面積に対して中塗り、上塗りの 2 層の塗装 (清掃及びタッチアップ作業を含む) を実施する場合の歩掛である。  
 2. 塗料や希釈材等の材料は別途計上するものとし、使用量は「鋼道路橋塗装便覧」によるものとする。  
 3. 諸雑費は、刷毛、ハンドミキサーの費用であり、労務費の合計額に上表の率を乗じた金額を上限として計上する。

## 5. 単価表

## (1) 組立・据付工, 鋼材質量 10t 当り単価表 (格子形鋼製砂防堰堤・鋼製スリット堰堤 B 型)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	10/Dw×1	表 4.1
特殊作業員		〃	10/Dw×1	〃
普通作業員		〃	10/Dw×1	〃
とび工		〃	10/Dw×2	〃
ラフテレーンクレーン賃料	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) 油圧伸縮ジブ型 25t 吊	日	10/Dw	〃
諸雑費		式	1	〃
計				

(注) Dw : 1 日当り組立・据付質量 (表 4.1)

## (2) 本締め工 100 本当り単価表 (格子形鋼製砂防堰堤・鋼製スリット堰堤 B 型)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	100/Dq×1(1)	表 4.2
特殊作業員		〃	100/Dq×3(2)	〃
本締めボルト		本	100	
諸雑費		式	1	表 4.2
計				

(注) 1. Dq : 1 日当りのボルト取付本数 (表 4.2)

2. ( ) は鋼製スリット堰堤 B 型の場合に適用する。

## (3) アンカー工 100 本当り単価表 (格子形鋼製砂防堰堤)

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	100/Dq×1	表 4.3
特殊作業員		〃	100/Dq×2	〃
普通作業員		〃	100/Dq×1	〃
アンカーボルト		本	100	
無収縮モルタル		m <sup>3</sup>		必要量を計上
諸雑費		式	1	表 4.3
計				

(注) 1. Dq : 1 日当りのボルト取付本数 (表 4.3)

(4) 現場塗装工 100m<sup>2</sup> 当り単価表 (格子形鋼製砂防堰堤・鋼製スリット堰堤 B 型)

名称	規格	単位	数量	摘要
塗装工		人		表 4.4
塗料		kg		必要量を計上
塗料用シンナー		L		〃
諸雑費		式	1	表 4.4
計				

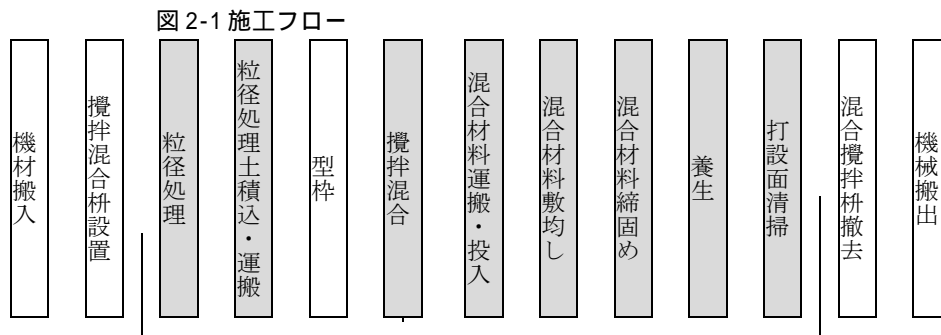
## 14) 砂防ソイルセメント工

### 1. 適用範囲

本資料は、砂防工(本堰堤,副堰堤,床固め,帯工,水叩き,側壁,護岸)の基礎及び中詰において施工位置周辺ヤードにて現地発生土とセメントをバックホウにて攪拌混合し,運搬,敷均し,締固めを行い,構造物を構築する砂防ソイルセメント工の施工に適用する。

### 2. 施工概要

施工フローは,下記を標準とする。



(注) 本歩掛に対応しているのは,着色部分のみである。

### 3. 施工歩掛

#### 3-1 粒径処理

##### 3-1-1 施工内容

粒径処理は,バックホウ(スケルトンバケット付)を使用して,骨材の最大寸法以上の土砂をふるい分ける作業とする。

##### 3-1-2 機種を選定

粒径処理作業に使用する機械・規格は,次表を標準とする。

表 3.1 機種を選定

機械名	規格	単位	数量	摘要
バックホウ	排出ガス対策型(第2次基準値) クローラ型山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	台	1	

##### 3-1-3 日当り編成人員

粒径処理作業の日当り編成人員は,次表を標準とする。

表 3.2 日当り編成人員 (人)

世話役	普通作業員
1	1

##### 3-1-4 日当り施工量

粒径処理作業の日当り施工量は,次表を標準とする。

表 3.3 日当り施工量

(m<sup>3</sup>/日)

粒径処理率 (%)	40 を超え 45 まで	45 を超え 50 まで	50 を超え 60 まで	60 を超え 80 まで	80 を超え 100 まで
日当り施工量	30	37	47	68	96

(注) 1. 対象土質は,砂質土及びレキ質土であり,土質条件が異なる場合は別途考慮する。

2. 日当り施工量は,粒径処理後土量を示す。

3. 粒径処理率は次式による。

$$\text{粒径処理率 (\%)} = (\text{粒径処理後土量}) / (\text{粒径処理前土量})$$

**3-1-5 諸雑費**

諸雑費は、スケルトンバケットの損料であり、労務費の合計に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 3.4 諸雑費率 ( % )

諸雑費率	5
------	---

**3-2 粒径処理土積込**

粒径処理土の積込みは、「第III編第3章砂防1)土工」による。ただし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

**3-3 粒径処理土運搬**

粒径処理土の運搬は、「第III編第3章砂防1)土工」による。ただし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

**3-4 攪拌混合****3-4-1 機種を選定**

攪拌混合作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.5 機種を選定

機械名	規格	単位	数量	摘要
バックホウ	排出ガス対策型（第2次基準値） クローラ型・クレーン機能付 山積 0.8m <sup>3</sup> （平積 0.6m <sup>3</sup> ）吊能力 2.9t	台	1	

**3-4-2 日当り編成人員**

攪拌混合作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 3.6 日当り編成人員 (人)

世話役	特殊作業員	普通作業員
1	1	1

**3-4-3 日当り施工量**

攪拌混合作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 3.7 日当り施工量 (m<sup>3</sup>/日)

日当り施工量	171
--------	-----

(注) 1. 歩掛は、粒径処理土投入、セメント投入、攪拌混合、混合材料積込までを含む。

2. 日当り施工量は、製造する混合材料量とする。

3. 混合材料量は、締固め状態における量で表示する。

**3-4-4 諸雑費**

諸雑費は、用水及び電力に関する経費であり、労務費の合計に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 3.8 諸雑費率 ( % )

諸雑費率	7
------	---

**3-5 混合材料運搬**

混合材料の運搬は、「第III編第3章砂防1)土工」による。ただし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

**3-6 混合材料投入**

混合材料の投入は、「第III編第3章砂防1)土工」による。ただし、これにより難しい場合は、別途考慮する。

## 3-7 混合材料敷均し・締固め

## 3-7-1 機種を選定

混合材料敷均し・締固め作業に使用する機械・規格は、次表を標準とする。

表 3.9 機種を選定

機械名	規格	単位	数量	摘要
バックホウ	排出ガス対策型（第1次基準値） クローラ型山積 0.28m <sup>3</sup> （平積 0.2m <sup>3</sup> ）	台	1	
振動ローラ	排出ガス対策型（第1次基準値） 搭乗式・コンバインド型 3～4t	〃	1	

（注）バックホウ及び振動ローラは賃料とする。

## 3-7-2 日当り編成人員

混合材料敷均し・締固め作業の日当り編成人員は、次表を標準とする。

表 3.10 日当り編成人員（人）

世話役	特殊作業員	普通作業員
1	1	2

## 3-7-3 日当り施工量

混合材料敷均し・締固め作業の日当り施工量は、次表を標準とする。

表 3.11 日当り施工量（m<sup>3</sup>/日）

日当り施工量	128
--------	-----

- （注）1. 歩掛は、敷均し、締固め、養生、打継面処理までを含む。  
 2. 混合材料量は、締固め状態における量で表示する。  
 3. 養生は、施工箇所をシートで覆うことを標準とするが、これにより難しい場合は、「第II編第4章コンクリート工1)コンクリート工」による。  
 4. 打継面処理は、打継面の清掃のみを標準とし、セメント散布が必要な場合は、材料費を別途計上する。

## 3-7-4 諸雑費

諸雑費は、タンパ及びランマの運転経費及び養生の材料費、打継面処理の労務に関する費用であり、労務費の合計に次表の率を乗じた金額を上限として計上する。

表 3.12 諸雑費率（％）

諸雑費率	5 (4)
------	-------

（注）施工箇所をシートで覆う養生が不要な場合は（ ）内の数値を使用する。

## 4. 材料使用量

セメントの使用量は次式による。

$$\text{使用量 (t)} = \text{設計量 (t)} \times (1+K) \cdots\cdots\text{式 4.1}$$

K：ロス率

表 4.1 ロス率 (K)

ロス率	+0.06
-----	-------

## 5. 単価表

(1) 粒径処理 100m<sup>3</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D	表 3.2, 表 3.3
普通作業員		〃	1×100/D	〃
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> )	日	1×100/D	表 3.3
諸雑費		式	1	表 3.4
計				

(注) D: 日当り施工量 (m<sup>3</sup>/日)(2) 攪拌混合 100m<sup>3</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D	表 3.6, 表 3.7
特殊作業員		〃	1×100/D	〃
普通作業員		〃	1×100/D	〃
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 2 次基準値) クローラ型・クレーン機能付 山積 0.8m <sup>3</sup> (平積 0.6m <sup>3</sup> ) 吊能力 2.9t	日	1×100/D	表 3.7
セメント		t		式 4.1, 表 4.1
諸雑費		式	1	表 3.8
計				

(注) D: 日当り施工量 (m<sup>3</sup>/日)(3) 混合材料敷均し・締固め 100m<sup>3</sup> 当り単価表

名称	規格	単位	数量	摘要
世話役		人	1×100/D	表 3.10, 表 3.11
特殊作業員		〃	1×100/D	〃
普通作業員		〃	2×100/D	〃
バックホウ運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) クローラ型山積 0.28m <sup>3</sup> (平積 0.2m <sup>3</sup> )	日	1×100/D	表 3.11
振動ローラ運転	排出ガス対策型 (第 1 次基準値) 搭乗式・コンバインド型 3~4t	〃	1×100/D	〃
諸雑費		式	1	表 3.12
計				

(注) D: 日当り施工量 (m<sup>3</sup>/日)

## (4) 機械運転単価表

機械名	規格	適用単価表	指定事項
バックホウ（粒径処理）	排出ガス対策型（第 2 次基準値） クローラ型山積 0.8m <sup>3</sup> （平積 0.6m <sup>3</sup> ）	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →112 機械損料数量 →1.71
バックホウ（攪拌混合）	排出ガス対策型（第 2 次基準値） クローラ型・クレーン機能付 山積 0.8m <sup>3</sup> （平積 0.6m <sup>3</sup> ）吊能力 2.9t	機-18	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →116 機械損料数量 →1.71
バックホウ（敷均し）	排出ガス対策型（第 1 次基準値） クローラ型山積 0.28m <sup>3</sup> （平積 0.2m <sup>3</sup> ）	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →22 賃料数量 →1.52
振動ローラ（締固め）	排出ガス対策型（第 1 次基準値） 搭乗式・コンバインド型 3～4t	機-28	運転労務数量 →1.00 燃料消費量 →10 賃料数量 →1.45